

2011~2012年度 IM第5組報告

大阪梅田 RC 会長 稲本 一夫
I.M. 実行委員会 委員長 秋元 延介

テーマ：「若い」ー認知症と長寿社会ー

ホスト：大阪梅田RC

日時：2012年2月18日（土）12：30～18：00

場所：新阪急ホテル

参加者：岡部泰鑑G・大森慈祥PG・神崎茂PG・横山
守雄PG・大谷透PG・松本新太郎PG・森康次
IM第5組G補佐・丹羽健二IM第7組G補佐・
IM第5組各RCメンバー・大阪難波RCメン
バー

出席者数：199名

日本の高齢化は世界でも類のない速さで進み、認知症は年齢とともに増加し65歳以上では、患者数は200万人（8%）を数えます。今年度のRIの強調事項のひとつである「家族」を中心に、患者をどのように支え、命の尊厳を失わずに最後まで生きるにはどうしたらよいかを考えることにしました。

関根友実さん（元朝日放送アナウンサー）の総合司会で、まず基調講演「認知症の予防、治療、療養最前線」を長尾クリニック院長、関西国際大学客員教授 長尾和宏氏が話されました。認知症には初期、中等度期、高度期があり、高度認知症になると着衣の選択ができなくなる、最近では糖尿病性認知症が増えている…と解説されました。早期発見、早期治療

が大切なこと、治療にはアリセプトが用いられますが、進行を遅らせる薬であって、新しい薬も出ていますが、まだ根治薬はありません。認知症の中核症状は最近のことを忘れることで、食事をしたことを忘れ、食べ過ぎて糖尿病になることもあります。周辺症状は徘徊や憂鬱症で、妄想で暴言を吐いて周囲の人たちを困らせます。認知症の人は最後には食べられなくなります。日本ではいま40万人の胃瘻造設患者がいますが、安易に胃瘻を選ぶべきではありません。認知症には医師とケアマネージャーが連携せねばならないと結ばれました。

パネルディスカッションでは熊田梨恵さん（ジャーナリスト・社会福祉士）から介護のなまなましい体験が紹介され、丸尾多重子さん（つどい場さくらちゃん理事長）から高齢者の住める環境と介護するひとの精神的安定が必要であること、相原克偉氏（大阪梅田RC会員・歯科医）から口腔機能維持の大切さと、認知症早期に名前入りの義歯を作るなど具体的な提案もありました。終了後の交流会では、講師と出席者の盛んな交流が見られました。

今回の催しはパネリストと聴衆が一体化し、非常に有益であったとガバナー以下出席者からの高い評価に満足しています。

